

伏見院御記

延慶二年
大嘗會御別記

和書門			
三	一	〇	七
八	號	函	架
六	冊	架	函

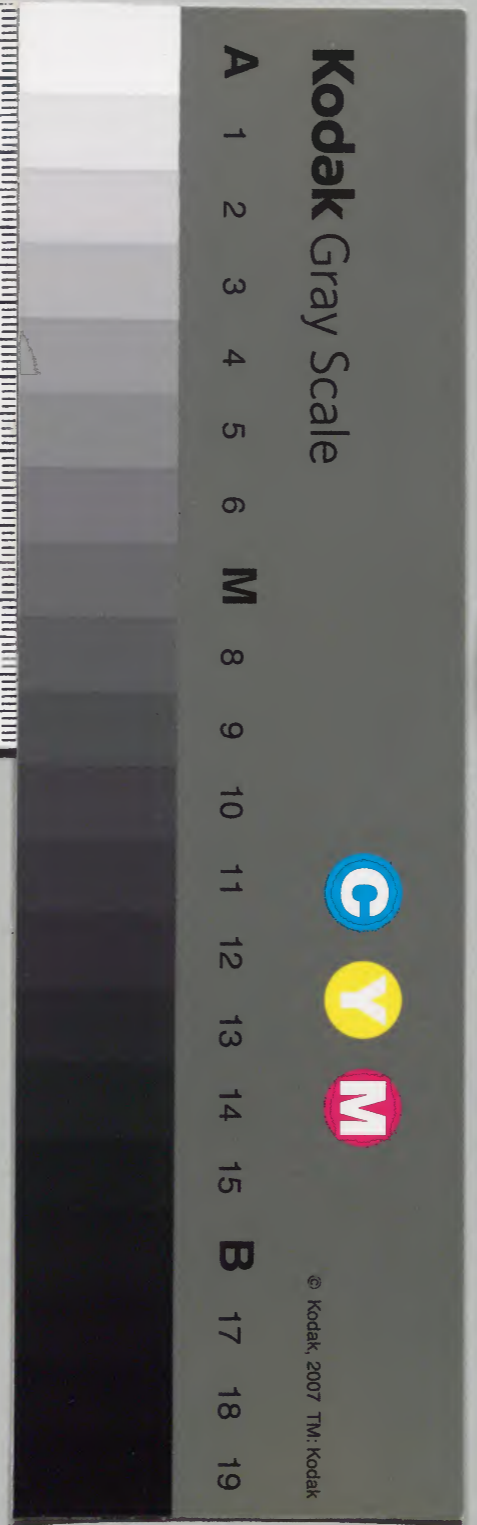
庫	文	閣	内
一	六	二	函
一	七	架	函
三	一	〇	七
八	號	冊	架
六	冊	架	函
和	書	門	類



内閣文庫	
番號	和 31078
冊數	6 (6)
函號	162 260

史一八五

六



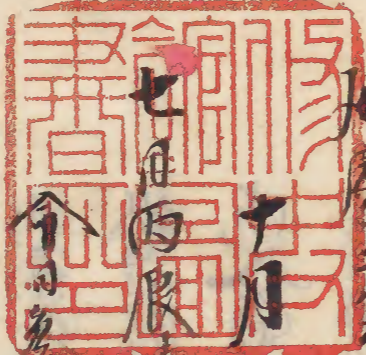
周
109



Faint, illegible vertical text impressions, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

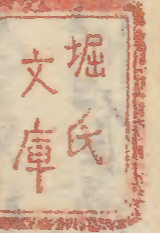
花
廼
家
文
庫

延慶二年



左手

後字多院



小倉大藏

七月西殿指攝政致系上望於常御所御對面風之之即改也

今日多義信有以權在中并定也台前令歌燈馬樂清暑堂神

宴和子合可前作也也首象仰之方彼為和禮付比巴也先例

和子合御還奇不天仁品安名尊律今樣難氣般河調調詠

保安西院和子合初度無御進神樂許也中二度品安名尊律

伊勢母初度初三度品安名尊席田律伊勢母比度男初院全次御

留給康治院和子合所見未詳久壽日平依仁安元日

月三品安名尊律伊勢母利御壽永品安名尊律伊勢母元

曆品安名尊律伊勢母建久品此後席田律伊勢母建后安名尊

律伊勢母貞應每院和嘉禎仁治寬治品此後席田律伊勢母

子合更衣

又應初度呂 以敬席曰 律 伊勢海 刺院 中二度呂 安名尊律 伊勢海

今度新院柳所作 保安例之文永 依天國事神 正應呂 以敬席曰

律伊勢海 正安初度呂 比敬席曰 律 伊勢海 中二度呂 安名尊

律伊勢海 今度吉野柳所作和子合御遊奇生例如此大略之

常如御遊角奇也此中保安平法仁安三義山刺柳細

御遊分... 被用... 有例... 義山刺柳

調大略也久急也凡此奇公合... 就中老定... 都合

三所奇安清昌有壹御神樂之將故由合内實云奇之時院也

云乎云第實蘇即共以不付之是二切不可合之間不付之致

致府入道清言宗冬中子也仍冬定之奇替也此事公不審妙音

流入道催馬示... 柳門内合宗能云中子也仍三立要錄... 彼院

之載之而此義山... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

義山... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

之間... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

替... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

位有柳分... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

不審... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

審之... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

十五日甲子精祝頭... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

大臣節... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

台... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

白... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

雷... 院書... 柳門内合院不作載之以之案之

...

...

...

...

長和五年十月廿三日御行幸根改乘車

康治元年十月廿六日御行幸根改乘車自南跡松尾頓宮

仁安三年十月廿五日御行幸根改乘車

元勝元年十月廿五日御行幸根改乘車自南跡松尾頓宮

建久九年十月廿七日御行幸御輿出行貞門之後根改乘車

門前程京車 唐車 遣入自府院門

貞應元年十月廿二日御行幸根改乘車

寬元四年十月廿四日御行幸根改乘車

已上在所見此外定猶有別狀

御行幸事

廿一日庚午天晴風靜今日大嘗會御行幸也仍上皇被三御車有

行幸御見物今度御機數依有甚煩以新儀所被御車也余可系

御車之由并日蒙作仍已一題看冠直衣

多度所方午時上皇御車也余迴有應方百尺并光輝

御車見在車口云即上皇名高御行幸玉體固未不系如此真似

御車時刻限已至而御道身之七應系七奇怪也藏書可貴似云

此御車殿後收度之儀候此間出車且今案已二題并女院御車

此間云御車列三南辰北面上赤雲更御位束帶時繪銀鎮奉仁

御車寄八張展風打板木先之出庫以在後奉仁及用寄御車之

後向女院永福廣義兼御車福門院御服裏菊御八種芳御車

紅御車紅生御車廣義御服裏臙御十黃青御車御表

紅御車芳御車久藤方紅生御車物具昭之波存子紫御車後

芳御車七青御車御車着赤也唐衣白腰裳二重袋物御

御車右方衣此度文應御行幸之時兩女院御同車之時御車後入衣

出右方理可送之臣被定出右方仍今度又如此右少將渡賴村御車女院乘御之後引出御

車後右方衣

女院御服

申放中門外殿上角前暫立

南面今度北南庭前山東可

長上中門內帝無便直備任之前中門外可立之在東第

次哥上中門外

出中門外候階東西

西上中門外候階東西

旭躬 赤池錦衣同單練骨衣袴法為水

久友 生立文袴同目

清勝 赤池錦單生備物袴文桐竹以

久次 單以細金置髮塗付袴

久直 單法之顯文紗之盛侍袴同目

地方 單法之顯文紗之盛侍袴同目

此方

久名 立文袴同目

武弘 赤池錦單唐綾袴赤池錦伏置也

久躬 單法之顯文紗之盛侍袴同目

久躬 單法之顯文紗之盛侍袴同目

久仕 打衣立文紗之盛侍袴同目

武直 單法之顯文紗之盛侍袴同目

下高也平文子有之

此際余去詣東脇向師信卿其兼隨身衣新色

西院同車事

上望出即 即冠直衣竟元以後大路即鳥帽子秋建曆二年前上皇若御冠今度

師信卿兼御兼御道身衣即前 皆悉次依即同余兼御車後隨

身衣色今度悉 左中將飛行取御殿入御車全取之欲入御而方而已

即入入在右中將有伴仍置余後方次引去御車內置以候言付

即車於中門外懸御車此間上皇御道身衣移馬次余隨身同騎

馬御車出門之間出車之西邊立北門前 向中將出衣 其色巨方 御車行列出殿

上中將身衣為宗 赤池錦 右中將光延 赤池錦

將漢賴 衣冠金銀 凡中將飛行 關腹袍老銀鑿光鑿螺鈿野靱隨身重

右中將伊家 同雅行但不懸光懸 白磁以候言 赤池錦 右馬次深田

同伊家但不付告葉 左中將具良 同漢賴 右中將康 同光 次云

即參議家親 赤池錦 太宰大貳雅俊 赤池錦 權中納言經忠

東帶時 前中納言俊元 同雅俊 同經親 同去即之時深田 右宮

大夫師位表末次辰調十二人二行 君下袴 次既合人十二人二行

合人今度次卯道身十二人 凡上堂院卽方兩將曹地躬久友西府

五清勝之次為番長久但便方余兩將曹久名武弘西府其躬

久兼西番長久任武近次卽車馬八到官着東等付轅卽車副

平孔也後卽半嗣以卽榻有卽車右方五次以兩方卽道有凡右次下福

卽道身院卽方四人次女院卽車馬代衣冠履衣次卽道友人及泉

門射及區原也此方三人次由能守及區信宗屋山射及區乾氏田使兼顯行

次大言儀不可流今日源康義女區信修已上布衣下結帶次出車一車乃將久

出衣履芳白衣黃青表表着青色也單亦也唐衣地榻表半

銅裝束三區上下每裏着衣其色色也二車乃將實改菊行儀着

紅葉表着紅單赤也唐衣地榻表半嗣三區上下地白儀前顯

乃也耐源康任裝束三車侍後志也東表菊履芳表着紅單

黃青裏備物唐衣海浦裳半嗣同車前顯乃也耐源康

同裝束卽踏堂用南門一條東行東洞院南行中門東行區小路南

行至二条大路、頭車停、其中分懸半有是物車二兩雖

人感之不為無礼、至不可玩、更不可謂之區小路以西被祝

卽車從二條面裏慢西端程人、下馬云卽南上西面敬上人東

上南面到之後、表朝、自列、進付卽車當半、別許、經、定

卽車北面向乾次女院卽車上方卽車西方玄院卽車次云

卽敬上人等着云卽在假卽車東敷床西上其上敷高麗怡

敬上人座在女院卽車西每帷只敷此紫置末極以西區小路以東

南小一汗又引假額額場南榻當敷上人座未引折北不滿

其西却後官人出辰其西北面等列三院卽方卽道身右在卽

車与云卽握之間西上系道身卽車与女院卽車間東上副小

其人類可服、面上、由、然、即、也、不、拉、且、建、磨、夫、射、親、清、任、任、次、著、之、何、今、度、及、如、此、小、面、敬、引、前、着、

淺、皆、結、板、

北面

東上

西上

頽築地當女院却車西程也 遣三出車東上南面北面座未引之移馬居國所既告人手有其傷

此間東極以東車其立之既從以廟官以深之而猶不乘引之之

假藉也次上皇正先從被作之云極方進臣司所率列儀一定何從

半且又司馬軍連之也司馬之官可作之云從以官以此類作也方作也

若極方後中車前檢中車前不隨后 二俛西行於可餅合騎馬於則亦在

司腹之場於中曰大波即山浦表未亦仍中從角應之進是經極前

此中戶也云從候中車左右安坐也 極方場表後是經起在中此中上皇

行司老氏以行遣人相構可早系是司馬表是經作此有甚度教則之久次是

官司之惟候中此間已却與寄從之云使遣奉是之云將久以由急却與云

今若却官東門之其度猶經教則及未斜且使不便及每從將其間

乘車窮屈已難堪忍中二刻先陣過後行列見南薄首仍不

注之行到大路教之也云以下於却中前合右物後馬仍院作曰

注馬其後不從能者何不同云云 職可然也却前長官別當實衛

以所稱云神妙也節下在人位 通平云 後之而云及乘燭節下少納

言在雅也馬亦存何事云云不云之言也上皇殊遲難教則度

全渡圍進之間云云辰辰上先從退在却道中手穩弓伏地進出

將馬并有却與前及然亦欲之可乎左右也但進日皆如此云不

那支子細却車一拜丈之官奉和却與以江將曹極躬早可奉

進之臣彼仰當却車前却與耶奉拜向為却名物也此事之例不同也今及

身彼之云 却後供奉人六跪不見候及昏黑也云却代供奉如恒之

一還却取松明師信口云亦寄却車今日四方候奉子刻件

行改以中口云今自明宮還却辦事每為之就中今度山門

嗽許大禮已難彼遂行而不為那日夕可再後便而中候今度

所彼院宜於是偏神明明如護也大禮已每為之一天人受何受

如此今日行年... 偏... 侍各氏... 改... 女... 杖... 侍... 氣... 元... 可... 運... 也... 逐... 不... 教... 合... 仍... 尚... 却... 絕... 用... 三... 取... 松... 明... 着... 御... 頌... 崇... 每... 先... 規... 狀... 但... 今... 日... 運... 引... 友... 力... 事... 也... 今... 日... 頌... 宮... 儀... 揚... 改... 照... 日... 後... 進... 可... 進... 備... 年... 亦... 仍... 治... 也...

頌宮儀

御入御西慢門... 經御膳... 候南寄... 同... 惟... 東... 面... 中... 央... 間... 左... 大... 將... 花... 大... 將... 候... 左... 右... 職... 事... 資... 名... 卷... 御... 簾... 係... 御... 候... 叙... 至... 候... 內... 行... 更... 叙... 至... 候... 下... 御... 之後... 置... 叙... 至... 於... 置... 物... 札... 職... 事... 首... 御... 簾... 御... 膳... 候... 略... 候... 可... 經... 侍... 列... 也... 則... 遷... 御... 候... 惟... 大... 將... 進... 候... 次... 寄... 要... 白... 進... 公... 候... 以... 候... 進... 至... 云... 重... 朝... 候... 叙... 至... 候... 大... 將... 花... 次... 將... 候... 奉... 書... 名... 候... 改... 候... 御... 輿... 左... 旁... 御... 輿... 寄... 御... 候... 惟... 西... 面... 云... 候... 以... 花... 云... 重... 朝... 候... 叙... 至... 候... 置... 大... 床... 子... 著... 御... 而... 子... 候... 御... 座... 攝... 改... 候... 御... 掃... 資... 親... 朝... 臣... 裝... 御... 帳... 次... 候... 御... 平... 水... 倍... 膳... 云... 重... 次... 候... 御... 後... 物... 中... 臣... 女... 候... 之... 生... 期... 云... 御... 著...

後... 座... 次... 候... 叙... 至... 候... 大... 將... 花... 次... 將... 候... 奉... 書... 名... 候... 改... 候... 御... 輿... 左... 旁... 御... 輿... 寄... 御... 候... 惟... 西... 面... 云... 候... 以... 花... 云... 重... 朝... 候... 叙... 至... 候... 置... 大... 床... 子... 著... 御... 而... 子... 候... 御... 座... 攝... 改... 候... 御... 掃... 資... 親... 朝... 臣... 裝... 御... 帳... 次... 候... 御... 平... 水... 倍... 膳... 云... 重... 次... 候... 御... 後... 物... 中... 臣... 女... 候... 之... 生... 期... 云... 御... 著... 仕... 御... 候... 引... 大... 麻... 於... 諸... 御... 次... 撤... 御... 膳... 物... 再... 諸... 御... 贈... 物... 也... 是... 大... 次... 察... 可... 撤... 示... 御... 中... 被... 略... 也... 也... 如... 河... 次... 置... 御... 之... 膳... 候... 候... 內... 膳... 御... 膳... 乘... 女... 馬... 腹... 御... 膳... 被... 略... 也... 次... 右... 心... 考... 山... 城... 御... 事... 勅... 符... 一... 敷... 圓... 座... 心... 東... 貴... 子... 右... 心... 著... 座... 山... 城... 國... 司... 獻... 物... 儀... 如... 是... 例... 大... 臣... 退... 去... 之後... 更... 氣... 佳... 奏... 見... 儀... 內... 將... 取... 之... 奏... 聞... 而... 返... 候... 次... 候... 御... 候... 祿... 候... 外... 略... 也... 次... 置... 御... 官... 司... 根... 改... 京... 車... 自... 開... 始... 於... 會... 中... 下... 唐... 庇... 御... 車... 之... 次... 御... 是... 物... 科... 指... 合... 仍... 以... 毛... 車... 乘... 會... 裝... 束... 司... 長... 官... 權... 中... 納... 言... 恭... 愿... 定... 資... 御... 次... 司... 長... 官... 權... 中... 納... 言... 戶... 患... 替... 友... 愿... 實... 漸... 御... 御... 候... 違... 候... 別... 當... 節... 下... 行... 儀... 大... 臣... 束... 帶... 備... 菊... 添... 打... 下... 綴... 長... 有... 文... 巡... 方... 帶... 備... 鞆... 袋... 裝... 手... 編...

大... 臣... 束... 帶... 備... 菊... 添... 打... 下... 綴... 長... 有... 文... 巡... 方... 帶... 備... 鞆... 袋... 裝... 手... 編...

路頭行列

生馬 置唐鞍

左番長奈勇右

右番長同平種張口

副舍人二人甘口

一人薄着 白裏
一人薄色 白裏

次郎既舍人末光

二盃牡丹裏取木 著綾衣
練貫穿 平礼乱緒

辰綱末康

警殿覆
退紅里袴

次下廊道身二人 二行

番長再下廊道身小童繪袍末濃袴
平羽録装束以下色目凡右有差別如別

次郎馬副八人 二行

家司侍

卷櫻冠袴衣以下如別

次平振八人 二行

郎中侍

同冠後芳禰青末濃袴 同色平履 下堂各取物

公卿

右衛門督源親平郎

昨參議不置唐鞍之由此之業和鞍楚鞞
付杏栗家別

左近中将及源実存郎

馬副四人 三人小道身史
既舍人居嗣

參議左人并及源実賢郎

行祗同前
但此小道身

參議右中将及源馬友郎

馬副四人 道身二人 童繪依馬大將代召品
之警備每文如何右道小可有文也

參議友原為相郎

馬副四人

權納言及源云秀郎

馬副四人

及源基友

及源經忠

權大納言源長通郎

馬副四人
具舍人居嗣

及源云茂郎

馬副六人
具舍人居嗣

及源師依郎

馬副六人
以上各不具雜色

今度馬副大員八人
大中納言六人參議
三位史之西波

御後次司長友
參議平惟經
馬副四人
平振二人
具持政舍人
居嗣

内大臣兼左大臣兼近卫朝臣

官人武負 野稻 騎馬

馬副八人 番長一座張口

行幸杖奉檢非違使

九衛門府 下廳馬九

尉多原知清

武家

多原宣重

武家

多原忠宗

安倍親冬 使

中原時實

中原章房

使

中原章右

武家

源

武家

惟宗 忠秀

多原為成 使

大江景繁 使

田使時職 使

中原師景 使

中原章經 使

檢非違使下部有以以
五位三人六位三人七位一人

富小路

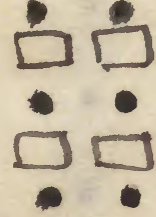
東山白

西山白



車

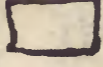
御車



覆再床
積疊也

院
御道
御車
西北

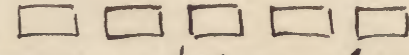
院
御道
御車
東北



院
司座
艮向

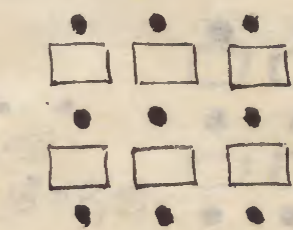
女院御車

之曲代廳官他此受



殿上座紫縁
每握東上西面





以
上
數
同

亦
極

即
斂
置
極
事

即中叙置百子帳大床子北此受人之所好大略以法與日
 曰即斂不置即跡方也仍可置百子帳大床子南此即跡也
 涼殿即斂置即座方右也此故也其任人所有即叙八何叙也
 即左可置之而東面即座之時必可有即右此時柄西向也
 即後帳之八即在東面也仍如此建席常棄井入道相國此時中將

熱叙至之後將即叙帳即叙置百子帳右方南是依上堂而指

能入道關白此時曰即叙可置大床子北方此時實氏曰云可

置右之由所也此時仍正殿中將通名相尋之處可置右方之由上

室即也當將七枚子孫存此說於今日之齊門置中叙又自即騰

後遷即叙帳之時云重朝此時入即叙於腰輿即後方

即叙扶持之入也此時入正上不及子細但足分反以先禮也此腰

輿前後極以見恩者也蓋叙之可見於物志之也此等即輿而

打位之南面也其時即輿向東即方東端也仍其類習之每凡情

置後方叙即騰帳東面也惟南殿帳即叙置所可為即後也能

可必得事也今日大鋪偏即騰帳南面也得叙之由思之又置

即後定之不取也其即前方柄即九及即前可向也必取直可置

也如此事及失禮之時作天懸委細不及一見物志事出未定事

神膳即被推不次將引陣事

也神能可公得事也神即膳惟花即被推後將引陣事
右味米物了而建膳依上宜仰次將引陣其間委細有傳但
近事而每此作法之上無由受也而推之必可陣致建膳只
及又以此法今自七歲馬等相之也

即今日只喚實官人不下馬之後即以卷逐電不待節
力之馬又不奉後即與及陣列之將及止以奇怪仍實衛
即去關之及為向及嚴密可被陣中彼下流官官人悉可
彼解官致也亦有此法之變以竟者之儀前右府中止此儀
以藏何許也

裏書
今度南軍即見物事元承之久大也
彼推後之文應臨將祭即見物儀又可為推後然

同筆

神膳即留札事
十一月

四日亥末精酉斜堪改被祭之末女於西面有神膳即札

具足不代也 上宜余傍設三人有其所懸人不臨候馬秘及也大祝所好也
顯一融之仔知狀但之有具夫亦其偏同注

一 神食薦自短帳下敷之事 神食薦敷右珠矢指也

一 中初二市之神酒四度可也 此事亦也尋常儀本相四三度黑三度之也見諸次也

一 神刺天巢各二面之置直事

一 葉盤盤外小雀本各別可置之中中之事

一 神着宮以下掩蓋之將自汁物稅之事

是如些說上常事然今日則蓋事自即着宮開之
種時不自汁物也仍失也周掩次亦必不可相替也

一 撤印食厲以後撤印諸事

一 印蓋可被置印食厲之中申之事

此事揚及此類只每度可返經法臨之普通類又如但

文應此未如外祖母中但備中可被置印食厲上由金申秋仁

必重直申之可返賜系女之而文應度後被置印前秋之由

有以見公不者也但揚及被申之不及左在文應改照念洗

只以以其度事揚及志可被存知事也

一 可殘着為之少官臣平印殿撤之事

夫箭去之思去強之印食厲數枚大矢箭也律為重事以

此類可伴公大開印中被申作也然秋以行及返出

九日戊子晴午刻余君由衣系女洗印方至此所印在仍暫對面

未刻後及彼系由西面朝駒上堂印對面花園院上同印對面余有

此所今日神膳間更可有印習孔而彼具是亦未佳新其可進也其

間觸穢而事有沙江如相子合臨球神更定被行之條每子細

秋揚及則移此由九大會神事中觸穢更被尋也例外

就各所見不詳由金申秋神事中就穢類事何秋可指沙江平事

以親時人有勅問之其間事要細不及聞也入夜神膳印習

孔五邊際有此事上堂印應揚及同秋候系女信濃勤法膳凡

此大事雖三人奇知事也此信濃文永心應永仁心女已四度

勤此大事者也仍候存政費以上志之不從此役今度以勤仕者

可為初度也仍今度後被置改費之者之條可為何秋沙江在

其所以就申的合和後者此大事又相平合候每為之勤

之條公大切也仍可被和張之由殊所被作下也然去就當

職於當日法膳及上可勤但由被作下也仍為方每為信濃

杖持設於窗哥令勤侍市中之也今度信濃勤添膳設上之傍
見之是亦兼女所必有相違事也今度可被用之統委細被
作也其情

一 却平伏時即中今夜却平中件取進猶如此可進狀也

一 却平伏具進時先却揚枝五次却平中位也初撤時先可撤却

平中位之由兼女所存如此後撤時七自却揚枝五可撤之也

一 食萬敷様

兼女所存神食萬敷様南端東西妻敷之即食萬敷様置西端

南北行敷之御座而注為兩儀於神食萬敷様是西端南北行御

食萬敷様置北方此敷様終有便且之故也東西行可敷之也永仁今夜

如兼女所存敷之狀之由兼女始之

一 置次平物事

一 米芥存先葉盤置次御箸之而後常儀之可置御箸後之御

一 開蓋事

一 自汁物次中至御箸在開之而後自御箸宮可開之但為秋

也一定之秋行不番

一 同蓋置御事

一 兼女置御食萬西端而可置汁物東後作上也

一 菓子法一和布汁与蛇汁之間切海松可供之由中是之供時

和布汁菓子東置之切海松每所之不番而和布汁求信供

若余更不覺悟若其時不然之由存之切海松事後日上置作

曰天仁匡房記有所見但此正供和布汁不用塩切干海松入之

若此事狀此外所見未之覺出也

一 王上殿初平平令取給之時如被作由兼女申之此事

一番之間相尋之變私所持次亦見之由申之此條後不審
可尋也

一 御飯米許之可被供之由永仁有沙汰之由米女申之二坏時
尋常執被供粟粒此條不審後大周之可被相尋之由有其
沙汰也

一 御飯以下平手被盛之時米女四種之一坏之自平手取出此
事僅無所見如何

一 米女於御飯不加汁後可加汁之由被作是之可被祕事也仍
米女之可秘之由被作下也

一 菓子十二葉盤一米女可供粥之由申之而任常流之可供
御酒之

一 供御酒之時後取之瓶流膳所持入之御酒膳米女自取
瓶入之可奉之上後之由有其沙汰但兩執兵不可告歟

凡此事有三說件兩說外又執天皇本初之令持給之流
膳入酒之在院也何院作猶膳膳自以奉初入之可奉
天皇之是能執歟

一 奉初尋常流納平出而入御着宮之由米女申之於可納平手
也

以上各條後猶入加平手宮能後也

一 後取入御酒之時之度凡廻而可廻在之今度後取之猶也熱可廻
在凡廻之條無便直事也

一 奉初之由米女申之白之度黑之度熱之度也仍奉初之四之可用
之由被作

一 却新米粟各一坏之由米女申之而米二坏粟二坏熱可為粟

之由彼作

一 王上所殺聞食神酒酒膳神蓋入後取奉 王上猶仁常統
同戶外入神酒可佳

一 采女私神申別限采女所好次申也共恨一若其由也
之將欲祀度時神申之請以申大昭法膳持神食萬退出
之時神申申載之如何似是可任采女所好次也

一 傳之此等級委細彼作念明量重又可有神習孔也彼定柁
改去以親時令同及及信儀作法所好每相違明日神習
孔後依儀可象狀又可象象作日當自然當履以上可象也

一 志明日計恭也者親時以此有傳作化此大事偏帝者所為也
以合勤然而知主之將自勤以依不輒為神代信務改勤之澄知主
十歲以後自即勤仁也後人之將之親所終不入神殿中也王上

知主時神改者即代信務

一 与酒膳采女相對勤仁之何此大事王上親相酒膳采女外

一 更無相入大概一融流次片又如記錄載之但委細口傳說最

一 秘度不以為多為世大周并移改委合所知其甚故法性交通
但三條宮故早世祀之即又有中地致自傍家申之程
殊委之河以之其後至今據改相續代達此節日就文書前

一 白也月輪後至盛也入不達此節後仍五系二條五條三流冰相
作一卷秘手

一 統儀傳節亦無不重但東之入道達此節其以後福元園因
明寺又達此節洞院抄及不達此節其改一條抄及達此節抄及

一 法性寺以後相續達此節口傳志也其以應能取當職神膳
間事于顯念院入道類類即同九系永仁表仙洞教日習其

一 將大周再故物能攝改于將共收直序中法今又據及相
續奉法口傳誠不可中地致
神食萬敬又應永仁神食萬短怙南端東西妻神食

平手置板

舊後柏西端南其妻教之而今度神萬種枯西端南北其妻即食萬種
柏北端^{却前}東西妻可教之此教亦猶有便回之教也凡是一西說
也米女所拜類文應永仁定也今度改其教及作進件次才食為
數次文應永仁定也仍書改進也且正應教極今被用數極之
又平手置板有兩說一說二行一說五出五出二曰置也云安被用
五出之樣之由米女中之白河後馬初為院作口終二行能說也
三行進例大略彼用二行說也云安河河改中不審也

土部令云

十日巳丑晴申刻神膳習孔博及今度社修直序仍今朝是
今日改上氏女勤信膳可好知被委細被修各信讓修信
土部令云
上日庚寅晴云顯即系古日所作古事要細修各也信有門
夜被令奇權馬樂以也藉奇亦合合之今被被行清暑者堂御

清暑堂御

此間廳官四
五六奉江立明
西上北面

密容假事
此更進即
先例殿文
所作之時
役人置

神樂和子各屋中并國所奉其儀後後東西妻一門為御
所修細細之所^{神樂和子}其土敷東京錦員卯酉廊南北對座
敷信內座為所凡八座即座間左右供掌燈^{有可敷}東面自南才
二間為女院即座間中三間為余座子一懸所作人亦皆系先陽及
被着座^{直衣比天仁知是院入道院和子各}權大納言通重^{同權中細云}
冬氏^川是藤^南前右^出所^前實^南同^後位^顯雄^南賴^成或^北
等者座次冬定有將兼高木朝臣候透渡殿東普字^左出
將監多久忠^東等^候砌^次殿^上五^之置^御遊^具先^留信^置通
重^御前^次信^次置^冬氏^口次^比巴^置其^多以^前次^藏人^軍
置冬定^御也^古^先殿^上人^所作^之時^器自^身定^持旅^次也^由有^甚分^以此^因房
逐^置也^此事^先則^當座^不是^若事^理行^次取^下物^以次^神樂^所作^人在
殿^上人^自身^可持^多氣^如何
和子顯^權微^音都^不聞^只說^以未^和子^賴成^為御^實御^集象^事

平手置板

舊後怕西端南其妻教之而今度神萬種枯西端南北其妻却食萬種
怕北端^却東西妻可教之此教稱猶有便更一教也凡是一西既
也其女所拜類文應永仁定也今度改其教及作進件改才食為
數秋文應永仁定也仍書改進也且正應教稱今被用數物之
又平手置板有兩號一號二行一號五出五出六出置也正安被用
五出之樣之由來女中之白河後馬相為院作日終三行能說也
三行進例大略被用三行號九四安沙江改中不齊也
十日巳丑晴申刻神膳習孔得及今度後修直戶仍今朝是
今日改上氏女勤信膳可存知被委細被修信濃修信
加被持 入夜上還即與寄信問其儀如恒

清暑堂即神樂所

十一日庚寅晴云顯即系十四日所作之事要細修信也信有門
被修令奇惟馬樂以已籍奇亦合令之今夜被修清暑堂即

此間廳官四
五六奉仕立明
西上北面

神樂和子各屋中并國所奉其儀後改東西妻一門為即
所修細端之所^{神樂和子}其^{神樂和子}教東京錦員卯酉廊南北對座
數信因座為所凡八座即座間左右供掌燈^{神樂和子}東面自南中
二間為女院即座間中三間為余座子一懸所作之木坊系先陽及
被着座^{直衣比天仁知是院入道院和子各}權大納言通重^{同權中細衣}
冬氏^同是藤原^同有右忠^同有右實^同從三位顯雄^同顯成^同
等者座次冬定有將兼高^同朝臣^同候渡渡^同敬東^同普字^同江
將監多久忠^同素字^同候砌^同及^同敬上^同五^同密^同野^同遊^同具^同先^同留^同信^同置^同通^同
重^同即^同前^同次^同得^同於^同置^同冬^同氏^同以^同未^同及^同比^同巴^同置^同其^同多^同以^同前^同次^同藏^同入^同軍^同
置冬定朝^同也^同古^同
遂^同置^同此事先則當座不^同是^同招^同事^同理^同行^同次^同取^同下^同物^同以^同次^同神^同樂^同所^同作^同人^同在^同
和子顯雅^同微音都^同不^同聞^同只^同鏡^同以^同未^同和^同子^同顯^同成^同為^同嗣^同實^同即^同集^同象^同等^同

此處假事
先例殿之
所修之時
役人置

和子顯雅^同微音都^同不^同聞^同只^同鏡^同以^同未^同和^同子^同顯^同成^同為^同嗣^同實^同即^同集^同象^同等^同

其駒次御遊通重門以双調之子云調三行之後兼高吹樂象

有夜次調實門吹笛音最次笛舞象吹調子此間兼調琵琶

云顯門同調之御舞象又調之次第七撥云顯門同之次彈

撥合自二笛調子今聊不畢之先後合彈一次實明門歌安名

尊余付琵琶初段違付中二段今聊不付中三段今初段同所人有修

宜不可催馬樂次音後之段引上方可付由薄也起而如此事隨次馬破音殊次帶回弦等付之如先次馬急之並付語之間

笛与笙和子也琵琶進退甚以雅潔也兼付比巴之後和子頗

為長二及奉生心交初笛上中云顯門上琵琶余独彈之云

及笛上之方兼上管也第一入殘次通重門吹玉調子其間不置

比巴鼓也兼樂笛吹調子方兼彈撥合自七始之式撥合次伊勢

海次方威樂次調德是兼明口乾音信有節冬定有將舞

高奉朝也助音調流兼置琵琶他具之得云顯門可付笛

之中亦調實門仍其由次河洲五及中兼上管初笛上中云顯門上琵琶

琵琶兼之從兼上琵琶仍仍顯門更到及初彈之兼調子五及初

彈之而四及五及在思方上之吹而強水邊共在河洲一置比

巴次及及入徹即進其次中記座儀有以起座之後兼入内今夜

所應無一事邊出也偏妙音天具助也事云顯門内之兼即

湯殿上上管即此也柳依即酒今夜良道具撥年夜群之由

上管被下下云顯門又示此旨是兼那高若左右物候其也之

故也尚之所作無為無事兼之兼之極方也

廿二日辛丑晴申一燕為柳院南陽洲中兼兼後即東後八兼

柳東兼柳兼儀也古管柳鳥帽子衣兼風之兼字以成廣

國房伴家兼忠朝也下北面信宗以下古兼柳隨舞短躬等

供奉之柳路室所北一條西行至悠紀柳場所懸即牛入柳南

亦場所即院中兼三

其月初度有固辭氣不并改實以爲度或四度可也
乃其其時多之固辭之而自初度詳返至其人以不可記之
中法之次不并改實之五之不便次此乃推氣隨時隨處未之明
皆如之次永福門院時於國所有此事

抑今夜推氣古宜永福門院余三方推氣許也即方之多之間
其後應令推氣古宜則亦可及皆之系勿備多也仍自歸即方
可氣後日之永福院推氣行此事等指之候可也之次
今夜出以草

頭右中將云重朝也 頭左中將資親朝也 右兼輔後兼朝也
在中將有時朝也 白經頭後言朝也 左中將兼高朝也
左中將雅行朝也 左中將雅成朝也 左中將冬家朝也
左中將馬清朝也 左中將頭兼朝也 左中將約六朝長後

教右兼權位資志 右中將基定 國資

前兵衛佐東後 攝人備以忠 藤原佐雄

備以具 保氏義

於攝政直序叙位事

之上者即倚子方事

今夜攝政直序行叙位云即師信口經也即通顯之推業云廣以
并定之云云又不足之有親時或輔未取之云今日以書以白裏
神帳間事能之可有即福備之上即法大事云有此受就中神
教燈籠火幽亦無牽控仍如却次中敘神燈架之不輒叙仍殊
次中事不備可有即其法也又節會自今度有出即叙而節會
別每即作法但少之可有即其法也又節會自今度有出即叙而節會
子西着即其其根經倚子東着即常例也但後馬其法作白
方其經即倚子西可着即之今度儀定何及彼斗中叙又內并中
即酒勅使奏聞之時可有即其事

即扇紋也

又即酒勅使奏聞之時可有即

按二年十月十日卯時

目此事殊可有印分別之申之且建曆此條以先秋以
皆自意存之規今申也凡如此事是自上宜被申如余度
又誰不可然主上印事一向可被持申之也自改院廢之豈作

之印此事亦無左右所之事也人定之屬目也

廿四日秀卯天法今日為禱公印物印筆朱在門余可候

印事後早且以奉行入庫并酒房朝臣印事主所事
則物面也而房中日第且公檢知其所是印事可被立之當討教
之無便且以難之印事終送寄南可被立之款余若曰代之記六仗
公坤角礎与印車萬尾平以立之款其程當時無便且平國房又
申云然余又曰先例之所送分明隨便宜猶寄南彼云之條有
何事亦又作曰云即敬上人為列之所事建曆云即西上南面敬上
人其末一列也而如先親之祀者難之敬上人於可列此南西上敬上

今度儀人之海和何禮下如林夏奉行入委細可物也而房
若不分明之面之可責伏而作之也公即未一人未春之及午斜玉
房記在面之權後爰因房申曰前江府只今如此今申之余被
見之被收曰新院印道身之所文應無所也之申院之申引見
或記之流却道身印車以新院印道身印車南四方以之也
若今度可為其收之又云之敬上人為列之所事云即西上南
面敬上人路南西上由可被收之皆以可為此定之也作之且可
因申上之也作之若將余地後敬方上宜因後後敬此間
細代底印車打南在印道身亦列在申中門也余印車之候注
面入身象上之神也之也作此而節大略之系而之顯以未春仍
收及被責伏未斜之印上宜印鳥帽子直衣先期溪湯以在益朝臣
印鳥帽子平礼也是衣之印所裝
是衣之印所裝
是衣之印所裝

是衣之印所裝
是衣之印所裝
是衣之印所裝

上東室町
福門院
車廣義門院
即同車即見物
下北西又共
人六位三人皆楚
敬

公顯以衰廉隨牙不卷前而次上堂出御案進衰滿向御廉
御隨牙亦卷御前波乘御公顯以衰御東廉乘候御廉後退
候東首子也次依御月乘乘御車次候御朝也取御入御車次
引出御房窪賴朝也對縣布衣履宿也同甘之於中門外懸御
牛此間御隨身亦乘後馬御隨身亦四方共上鴈冠各裁綿備可謂
一可壯觀後移馬車中有揚馬一足奉久次乘之裁有其興於一條
至町女院御見物御始室町南行一乘西行大宮南行一乘西行至末
後門始御見物車跡之已足行始後藉之至公甚供奉人亦仗
合五丈之間可下馬而責仗合乘下馬後先親也候奉人亦下馬
之後不及引之難人亦滿之間事之根藉都以下見仗合以南
程可被祝御牛亦仗合礎難人亦三籠之間不及見仍候令去
其程被祝御車應候亦引之窪賴放引付御車仗合坤去

三行又三御車 西南三 上堂御隨身候御車北方 南六 乘隨身

候御車南方 北三 次四御四圍等衣別當御 直衣 別當御 直衣 別當御 直衣

今日供 奉後 種中酒言定資 直衣 新清言云秀 直衣 仁宰相中將 口

候御車相親 奉 等候御車南 用長床 次候上人雅康朝也

奉 良朝也 夜冠半靴 夜冠 同房朝也 奉 雅行朝也

同具 窪賴朝也 同房 末 頭 同窪賴 親賢 末

行高 末 為憲 末 亦列后其南 用短 次北面軍重相以下

七人又引其末 已上西面 御隨身 御隨身 御後候人及厚廣也 布

候御車後南方末後門西版主女洗御車 南面 永福章

義廣義之門院御同車八葉御車宏儀也且先例如此

地云即候上人引後後是物車不主上堂之國房悉可辨

却是有伴仍國房遺廢安未證合辨却候以不退仍國

房起座嚴密令柳教而後不退最大略云即待臣不後引懸
頭亦太很藉透之規願宿中後任法可令柳却乞而每其儀系
行石國房後有下知之云一身不及嚴密沙沙又即車道邊報
人充滿高聲即後宿人何不令柳教亦無所及之云不足言也
此間陰雲忽晴夕陽已輝小時兩國柳山行車每至自等
悉供奉如常檢取透使後之復還即先之女流還即車之
見初毛車亦收多遺之云根籍原亦不及加制止有若亡不可說也
云二條空女院即見物自條空前也取松明還即之後上皇及玉房
被作下云延方進宿司童中宿一在又烟三散行等相傳可被
急之由可申之國房中云延方已退去一余隨身及事退去進
彼奈何恍惚或作日可進彼國房及之乘作此有餘窮屈之際
急解裝束休息亥刻武部口親王亦余對面今夜烟三散行

幸一有即見物子刻件上皇即乘車余候御車後章義門
院廣義門院本全葉給下部亦將衣甚及夕國房朝臣亦北
面由之軍有即共官廳乾角彼三即車小面頗向云及一人至
明幸時新程行幸之上高即裝束云口中院大納言之條中
納言堀川中納言以上供奉後津皆著諸司亦忌行幸即
踏去御官東門經宿東北末至龍尾道乘即乘御與秋之即
後還即几今夜即見物生規或如難後而何例每度即見物殊出
用其儀公可然志之有及之明而今夜及一人至明陰有何及
亦三夜中雨濂而行幸刻限屆晴可謂神納受秋今夜重汝
即宿宿後儀中死以院大納言西園寺中納言亦收弘庇座之
自今夜西園寺大納言中納言別當亦收收之甚女五所陰陽寮
後聞西園寺大納言即乳父前藤中納言後先即乳父南院門中

坦之殿行幸
刻限兩身
江階承身仁
安示佳例也

納言即蒙束科 不依別初若少云 西園寺大納言、後房北面方在、納言云、 以上

二人系云、烟皇、徽、栗、田、口、清、言、平、宗、相、假、由、云、云、是、行、事、以、前、春、會、烟、皇、敬、 出、衛、次、將、左

基、定、朝、右、維、保、朝、右、忠、約、朝、右、右、資、實、朝、右、仲、家、朝、右、資

清、朝、右、顯、香、朝、右、顯、資、左、衛、門、權、左、親、時、右、忠、權、左、資、右

右、系、納、通、多、朝、右、右、忠、右、成、輔、納、言、行、房、朝、右、顯、重、次

將、云、重、朝、右、以、右、 實、為、兩、朝、斷、代、今、人、掃、於、以、師、言、不、道、可、後

中、將、資、親、朝、右、 或、依、親、時、右、忠、耐、及、厚、資、倫、惟、氏、每、交、為、云、天、曙、程

納、言、破、子、云、 還、納、官、司、之、中、度、烟、皇、敬、之、間、中、破、子、依、仰、前、左、府、納、進、之

御、忘、却、之、間、昨、日、俄、被、仰、而、甚、行、美、麗、及、金、銀、 以、後、言、朝、右、被、進、之、於、烟、皇

西、園、早、速、調、進、右、神、妙、元、納、時、繪、手、箱、 敬、公、顯、即、念、忘、之、悠、紀、事、一、主、其、中、治、敬、以、前、依、之、云、今、日

標、中、御、見、物、御、車、之、所、注、滿、給、國、務、朝、右、其、圖、如、此

奉養代

女流御車南面也

御車院女

院御車道身自依能者云懸
南上西面

御道身未深流言發之用
依子與日盛与發皮也

御車

御後官人

御車院女
四下

田

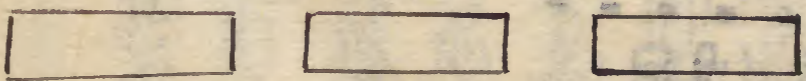
卯通身

長麻子

脚

脚原子

脚引



脚原子

脚上人用原子

市北面敷皮

南

廿五日甲辰晴已一盃後先象中迴立殿行筆儀每為每度日出
之程還即官日之天下大孔每為條大慶何更如然哉(〇)迴立
殿云顯後先(即每事奉行)之河陽殿後親時裝束
之規事亦有之(今度節會)象似筆傳聞注之

内并
外并
公卿今日西守大納言為外并上首同諸司而中院大納言中忌首孔位次可同也
確執之是無謂之先例全不致致上首者小忌之時可同諸司或否事係元記亦有覽也

右大臣道平 圓守大納言師信 中院大納言十忌 圓守大納言
別當實衡 圓守大納言 三條大納言小忌 平宰相惟輔 左宰相公保
堀河宰相小忌

近衛次將

左 基定朝臣 維成朝臣 國資

右 資榮朝臣 伊家朝臣 濯羽朝臣 顯赫朝臣 公清朝臣

并 藤朝

女納言 在雅

廿六日己巳陰晴不定今夕首馬御覽也於後殿面庭有此更如

云奉左大臣御覽即西人着座御隨身北面等引之一鶴毛二黑槽
三鶴毛四鹿毛五草毛六糟毛駝七鹿毛八栗毛九糟毛十栗毛駝久次

燈方等持 葉之更燭更一明日更可被御覽之今夜節

會右大臣將内并 南門大納言小忌 中院大納言小忌 栗田口大納言別

當權大納言御山 大納言三條 大納言平宰相 圓守大納言小忌

系入每行酒神宴被忌之時先例常事也(近衛次將)左忠朝

朝臣顯兼朝臣并雅任女納言在雅御概以葦旗被三人國司

深羽朝臣并之

清暑堂神宴所作人

中拍子 右大臣具守 末拍子 源宰相信有

節會

付歌 資親朝臣 有時朝臣 冬定朝臣

笛 柯亨

所右衛門督朝實

軍策

高朝臣

和琴 鈴鹿

太政大臣 信嗣

即遊

柳子 源家相

琵琶 玄上 飛丸

神樂

付歌 有時朝臣 冬定朝臣

新門大納言

攝政 吉大將

